

受験体験レポート 2011年度入学試験
T.A

受験校名

早稲田大学 政治経済学部 政治学科 (帰国 A0 入試)

試験日

一次試験 2010年 10月 24日

二次試験 (一次試験通過者のみ) 2010年 11月 21日

試験日数と試験形態

試験日数： 2日間 (一次試験は2科目、1科目2時間で間に昼食をはさみます。二次試験は志望学科によりますが、2011年度入試は政治学科が午前中、経済学科と国際政治経済学科は午前と午後の人が混じっていました。)

試験形態： 日本語 (抜粋を渡され、それをベースに問題が4-5問出題されます。)

英語 (読解力を測る問題が5問程度、残りは選択問題と記述問題で構成されています。)

面接 (面接官3人に対し、受験生1人で15分間の面接)

傾向と感想

帰国 A0 の過去問は共通試験入試のものとは違い、過去1年分のみ早稲田大学のホームページに掲載されているので、そこにある過去問と駿台が保管している2004年からの過去問を一通りやって慣れるのが一番だと思います。

日本語：日本語がある程度できる前提の上で、現代文ではなく、小論文をベースにした問題です。抜粋をA4の紙2枚程度渡され、それを読んだ上で2時間の間に問題の答えを記述していきます。問題によって記述字数は違うのですが、大体どの年も4-5題で、そのうちの1つは必ず筆者の考えの要約です。

内容は社会時事ですが、切り口が様々なので社会時事全体を見据えて構えておかないと答えるのが厳しくなってきます。但し、これまでの傾向として、貧困と雇用問題が多くでていたので、その2つは押さえておいてもいいと思います。最後の問題は筆者の意見に対し、自分の意見を提示するのですが、論理的に説明するにあたって、やはり日頃から社会問題に対し関心を抱いていないと咄嗟に思いつかないことがあるので、新聞に目を通すなどの対策が必要とされます。

また、帰国 A0 入試は共通試験を使った帰国入試とは違い、意欲があるかどうかを非常に重要視しているので、現代文や普通の小論文には出てこないグラフの読み取りが必ず出てきます。目盛の違いや単位の違いなどを見落とさないように、そしてその時代の社会背景とリンクさせてグラフを読むことが必要です。

英語：抜粋を渡されて、初めに Truth/False が5問程度出題されます。これを3問以上とれていないと、それ以降の答えはみてもらえないそうです。その後は選択問題、記述問題とまちまちですが、全体で2時間なので共通試験よりは比較的難しいです。共通問題とは違い、英語力を試すのは勿論、英語での思考力を試されるので、英語を操れる前提で社会問題についての問題が出てきます。政経の日本語を勉強する上で社

会時事にある程度詳しくなっていれば、あとは文法の勉強など、細かいことはしなくてすむので、日本語にしろ英語にしろ、社会時事に力を入れておく必要があります。

面接：2011年度入試以降、帰国AO入試は廃止になるので、今年度以降、この面接内容が政治経済学部/帰国生入試・共通試験に適用されるかどうかはわかりません。学科ごとに面接官が違いますが、基本は3人対受験生1人で15分間、圧迫面接に当たった生徒は今までで一人もいません。一次試験に合格すれば、面接は全員通ると言われていますが、志望理由を聞いてくれなかったりすることがあるので、その時は自分から言えるように模擬面接の練習をしておく必要があります。質問内容はパターン化しており、

- ・ 志望理由
- ・ なぜ早稲田大学なのか
- ・ なぜ政治経済学部/学科なのか
- ・ 興味を持ったニュース
- ・ 好きな本/最近読んだ本
- ・ 入学後、どのように過ごしたいか/何に力をいれたいか
- ・ 将来どのような職業に就きたいか
- ・ 現地の学校の様子（日本人の数、雰囲気、カリキュラムなど）
- ・ あなたがこれまでにしてきたボランティア活動について

など、受験生の意欲をみようとする質問が多いです。面接官の方々も興味を持って話を聞いてくれるので、比較的話しやすいかと思われます。